

宮城の「へき地医療拠点」4病院

医師不在時に「代診医派遣」

人口が減っている地域のへき地診療所を維持していくには、他の医療機関や行政との連携も欠かせないんだ。誰もが住み慣れた土地で適切な医療を受けられるよう、特別な医療体制が整えられているよ。

宮城県内のへき地医療を取り巻く体制は地図の通りです。へき地診療所は16カ所あり、診療所を支える「へき地医療拠点病院」に四つの病院が指定されています。

拠点病院の役割の一つが、診療所の医師が診察できないときの「代診医派遣」です。県医療政策課に設置された「へき地医療支援機構」が調整役となり、拠点病院から医師を派遣します。

宮城県七ヶ宿町国保診療所はへき地診療所の一つ。所長になって3年目の医師、高島恭介さん(42)は週1回、水戸市の病院で甲状腺内分泌の専門外来を受け持ったため、代診医派遣を活用しています。



「地域のかかりつけ医になりたい」と2年前に着任した高島さん＝宮城県七ヶ宿町国保診療所

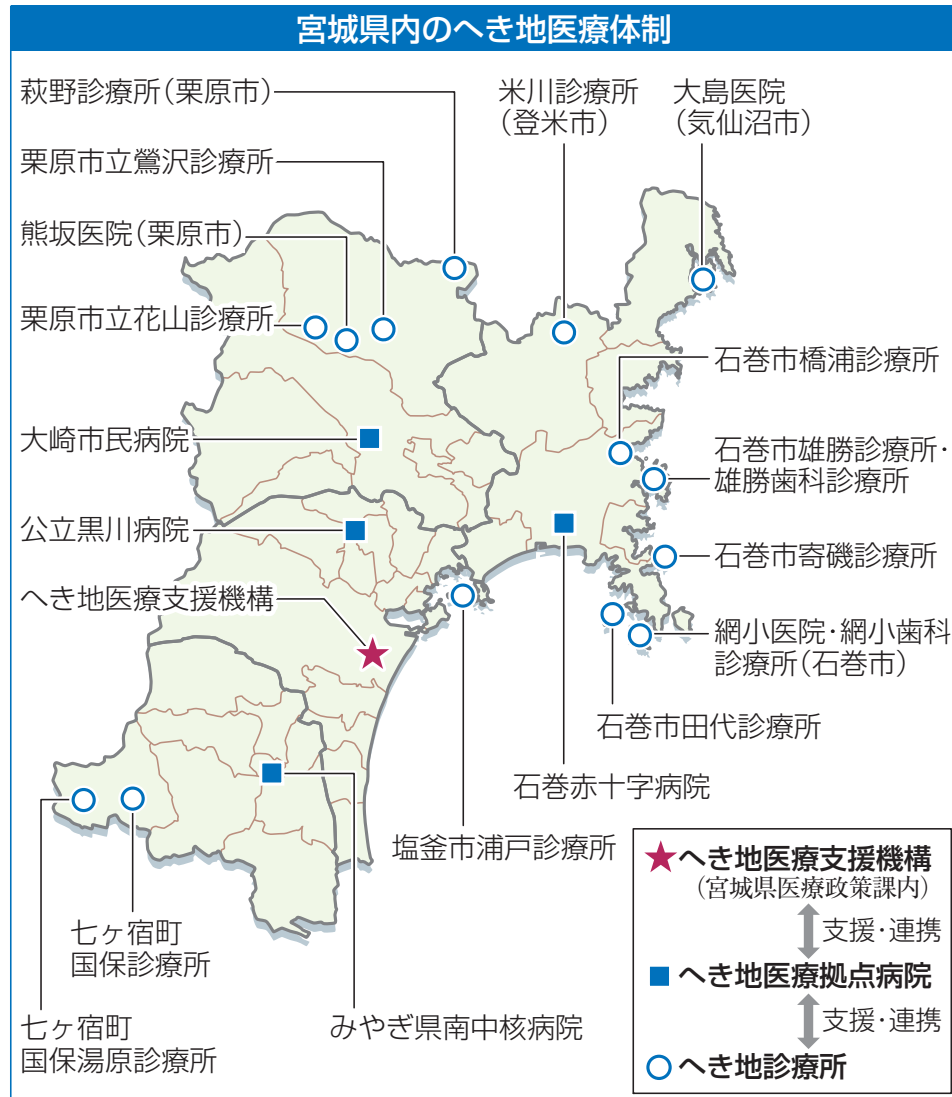
けではありません。山形県や福島県の病院も含め、他の医療機関との連携を大切にしています」と強調します。

医師確保が難しい地域では、対面診療を補う手段としてスマートフォンやタブレットを使ったオンライン診療が全国的に広がっています。

宮城県も昨年度、オンライン診療の導入を後押しする実証事業を始めました。本年度は七ヶ宿町国保診療所など3カ所で、オンライン診療を試験的に行います。

七ヶ宿町では、患者に診療所へ来てもらい、離れた場所にいる医師が画面越しに診察する予定です。高島さんは「診療所には耳が遠い患者さんも来ます。対面の付き合いを重視する地域でもあるので、実証事業の様子を見ながら、オンライン診療に対応できるように準備を進めていきたいです」と話します。

県はオンライン導入後押し



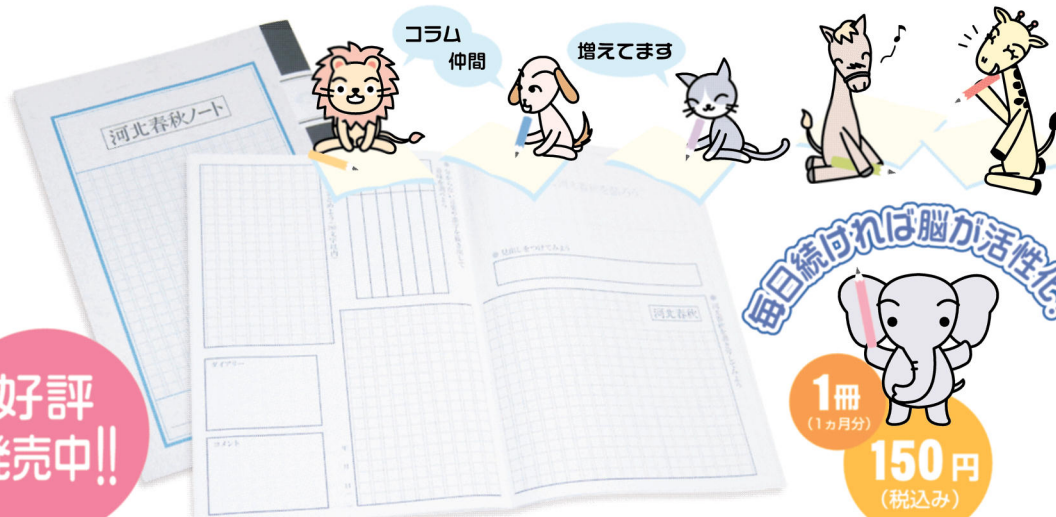
河北春秋ノート

「河北春秋」は論説委員が、政治、経済、文化、地域ニュースなど幅広い視点で筆者の意見を織り交ぜて執筆しています。

「河北春秋」を書き写して自分だけのコラムノート作りませんか



好評
発売中!!



脳トレ

コツコツ続けると…。
集中力が身に付きます

入試に

読み解く、伝える…。
国語力が高まります

就職に

筆記、面接、小論文…。
時事問題は必須です

毎日続けられれば脳が活性化!

1冊
(1ヵ月分)

150円
(税込み)

お申し込み お近くの河北新報販売店へご注文ください。 お問い合わせ 河北新報販売事業協同組合 平日10:00~17:30 TEL.022-211-1349